

## 公共施設設計へのワークショップ適用に関する研究

平山, 文則

<https://doi.org/10.15017/1654616>

---

出版情報：九州大学, 2015, 博士（工学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名 : 平山 文則

論文題名 : 公共施設設計へのワークショップ適用に関する研究

区 分 : 甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

ワークショップ（以下はWS）は、計画案策定に関係する人々が一堂に会し、作業を行いながら議論して結論や一定の方向性を出す合意形成手法の一つであり、その範囲は都市建築分野に限らず、音楽や演劇などの身体表現から各種体験学習、セミナー、教育に関わるものまで幅広く活用されている。これまで都市計画やまちづくりのWS手法に関する研究や報告は数多く発表されているが、単体建築設計に関するものが少ない。それは設計行為が建築家の感性や創造性にかかわる部分があることや、WSが設計行為という複雑で長期間にわたる作業の一部であるため、膨大な情報の中からWSに関わる事項を抜き出すことが困難であることに起因している指摘されている。

以上の背景を踏まえながら、本研究は利用者の使い方が前提条件となる公共施設を対象に、WSの手法が多く採用されている基本計画及び基本設計の2段階に着目し、WSの目的、建物種別、参加人数、回数、実施の工夫、住民関与の度合い等に関する情報をデータ化し、定量的な分析により公共施設設計におけるWSを効果的に進めるための手順と要件を示すとともに、竣工後満足度の調査結果を分析し、WSにおける住民の関与度及びWSの効果を明らかにすることを目的としている。

本論文は、5章で構成されている。

第1章では、序論として研究の背景、目的、論文の構成を示すとともに、既往の研究及び本研究の枠組みについて述べた。

第2章では、全国の設計事務所及びコンサルタントで実施されたワークショップ40事例を取り上げて、建物の属性、WSの体制と手法、住民への情報提供、住民関与の度合いに関わる33項目の情報をデータ化し、分析を行った結果、WSの採用事例は近年増え続けており、従来の文化施設に加え、庁舎や学校を含めて、その適用範囲が広がったことを明らかにした。また、計画条件の設定や計画案の作成における住民関与の度合を高める要因として、参加者数、出席率、回数、実施段階のWS体制、そして住民意見の記録・報告方法等の住民への情報提供があげられた。さらに住民への情報提供に関しては、WS開催時に出された顕在的な住民意見を詳細に報告することに加え、WS時に出されていない潜在的な住民の不安・不満についても汲み取る工夫が必要であると指摘した。

第3章では、小規模地域コミュニティ施設として愛知県日進市の福祉会館を取り上げ、計画・設計支援のためのWSを対象に、WSのテーマ、プログラム、提示資料、成果物等の基本情報を把握した上で、WSで出された424の住民意見を分類し、計画案の策定における住民・行政・設計者の3者間の意思決定の仕組みを明らかにし、WSを効果的に進めるための知見を示すことを目的としている。結論では、WSを効果的に進めるためには、WS運営・進行の周到性、各回WSの課題設定の的確さ、固定メンバーによる情報・議論の連続性、住民の主体性を尊重する設計者の意識が重要であると指摘した。また、同種の4建物の竣工後満足度調査結果とWS実施の有無に関する分析結果では、設計段階におけるWSの実施により、使い手の視点からのきめ細やかな意見が建物に反映され、利用者の満足度向上につながったことを明らかにした。

第4章では、基本設計段階でWSを採用し、竣工した公共文化施設を対象に、WSの実施内容、住民意見等に関する情報及び施設竣工後の満足度調査結果を分析し、WSの果たした役割、効果及び満足度を高める要因を明らかにすることを目的としている。具体的には、山口県下松市の図書館・公民館複合施設を取り上げて、基本設計段階のテーマ、プログラム、提示資料、1,140の住民意見を整理し、第3章の分析と比較した結果、基本設計段階ではWS全体の流れを踏まえた情報の連続性ある提案と、最初に設定した回数や期間にとらわれずに、時間切れで議論を打ち切るのではなく、住民との合意形成に一定の方向性が出るまで継続する余裕をもったスケジュールの設定が重要であると指摘した。また、WS意見採用率と満足度調査結果は概ね同様の傾向を示しており、具体的には図書館の意見採用率・満足度も高く、公民館ではその値が下がり、また共用部と外部空間を含めてWS意見の採用率と満足度の一体的な相関関係があることを示した。さらにWS参加者は非参加者に比べて、個々の部屋だけではなく、日常的に目にする空間を含めて評価対象としている点を明らかにした。

第5章では、本研究で得られた結果を総括し、まとめとしている。